

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 22 日作成)

委員会名	鉄骨造防水小委員会	主 査 名：輿石直幸
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会(防水工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2003 年 4 月～2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鉄骨造建築物は、架構フレームの剛性が小さく、屋根・外壁の構成する部材の種類や接合部が多いなど、防水性能を確保する上での難点が多い。本委員会では、鉄骨造建築物における防水工事の実態および問題点を明らかにすることを目的とする。2003 年度は広く鉄骨造建築物全般を対象に、屋根を中心とする防水仕様およびディテールを調査し、現状の把握と問題点の整理を行う。2004 年度は防水材料メーカーや関連団体へヒアリングを実施し、鉄骨造の防水設計に有用な技術資料を作成する。	
委員構成 (委員名(所属))	板井克真(多田建設) 市川裕一(東急建設) 尾形眞隆(鹿島建設) 久下高豊(清水建設) 輿石直幸(早稲田大学) 西田和生(国土交通省国土技術政策総合研究所) 山宮輝夫(大成建設)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	60,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回 9 月 11 日(6 名) 第 2 回 10 月 23 日(5 名) 第 3 回 11 月 27 日(6 名) 第 4 回 1 月 9 日(7 名) 第 5 回 2 月 27 日(5 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>(1) 研究対象と問題点の整理 架構形式、屋根・屋上の構成方法、防水適用部位の種類などの組合せごとに、現行の仕様書類での取り扱い、予想される現状の問題点、本委員会での対応などについて自由討議し、研究対象、基本方針、成果物のイメージ造りを行った。</p> <p>(2) 構法の分類および機能分析 防水適用部位の構法をパターン化した。外壁と屋上の取り合いについては、前者を 4 タイプ(: 外壁とは別にスラブと一体の立上りを持つ。 : と同じであるが立上りの面外剛性が小さい。 : 外壁材が立上りを兼ねる。 : 軒先で排水する)、後者を 3 タイプ(A:スラブが連続している。B:スラブが不連続で面外剛性が大きい。C:スラブが不連続で面外剛性が小さい)に区分し、それぞれの組合せ構法について、機能上の長所・短所を整理した。その上で、構成材の種類を想定した具体的な事例について、要求性能を確保するための要件を整理するための調査シートの様式を作成した。同様のパターン化および機能分析は、塔屋外壁とパラペットの取り合い、設備基礎廻り、はと小屋、トプライト等についても行い、次年度、調査シートに基づいた事例研究を行う。</p> <p>(3) 技術資料および事例の収集 ALCパネル、折板・デッキプレート下地、葺き材などによる屋根構法、ALCパネル、押出成形セメント板などパネル系外壁構法、ダブルパラペット笠木の外壁層間変位追従機構などに関する技術資料を収集し、問題点を整理した。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>委員構成が確定せず、活動の開始が遅れた。中盤からは定期的に委員会を開催し、活発な議論を行うことができ、不十分ながらも実態および問題点の把握についてはある程度の目標を達成できて次年度に向けての方針がほぼ固まった。</p>
その他評価すべき事項	特に無し